



メチョー大学

Maejo University

タイ王国



- 学部学生 17,410人
- 大学院生（修士）709人
- 大学院生（博士）185人
- 職員 1,123人
- 教員 685人

ホームページ <http://www.mju.ac.th>

交流協定締結年月日：2002年3月7日 主管学部：農学部



メインキャンパス(チェンマイ市郊外)



農業+留学

国際交流の特色

循環型農業、耕畜連携や伝統的農業を軸にGreen Universityを目指している。ICTやAIを用いた研究にも積極的に取り組む。

メチョー大学は1934年6月にタイ国立農業技術専門学校として設立され、タイで最も古い農業教育機関の一つである。1975年にタイ政府大学省管轄の国立大学になり、現在、チェンマイの本校とフェアおよびチュンボン分校からなり、教員685名、職員1123名が勤務している。学部については、農業生産学部から2008年10月に独立した畜産技術学部、自然科学部、農業経済学部、農業工学部等の12学部から成る。学生数は2016年5月時点で、学部学生17,410人、修士課程大学院生709人、博士課程大学院生185人が在籍している。

交流実績（令和4年度～令和6年度）

年度	R4	R5	R6
受入・派遣			
学生の受入・派遣	0	0	0
研究者受入・派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）	16	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	8	0	0

学生からの声



おいしいタイ料理

สวัสดี ครับ (サワディー クラップ) 半年間、タイ原産の植物であるProng Fah (*Murraya Siamensis*)の基礎研究に従事する為に半年間留学しました。この植物は地域によって形態学的に異なる形を有し、遺伝的な差異や、種子の発芽状況の違いなど不明な点が多いです。タイへの留学は初めてだったことも有り、生活面が少し心配でしたが香川大学卒業生のLaaorthip Maitree先生、Theeraniti Puangrit先生のご配慮により、現地の学生達と安全に楽しく生活できました。写真の様に友達づくりに成功し、帰国後の現在でも彼らと連絡を取り合っています。メチョー大学の特徴は、行事が多いことで、毎月の様にイベントが行われています。日本より活気があるように感じました。両大学が交流を通して友好関係を築いてくれていますので、留学の意思さえあれば、必ず素晴らしい体験ができます。体制が整っているので、新しい環境に飛び込んでみてはどうでしょうか。農学部4年（留学当時）藤田 修太郎（2020年3月卒業）

教員からの声

礼節を重んじるタイ王国の国民性は大変穏やかで、日本との類似点も多いです。タイ王国らしい「やさしさ」を実感できる留学サポート体制も整っています。大学院生（女性）は、6ヶ月間の留学(JASSO奨学金)経験が高く評価され、専門職職員として公務員に採用されました。トビタテ！留学JAPANの学生を受け入れており、地域枠からの留学にも対応していただきました。本学卒業者でもある教員が、皆さんの留学サポートに全力で対応してくれます。農業+留学を通し「強さと優しさ」をメチョー大学で学びませんか？ 農学部准教授 松本由樹



充実した飼育施設

トビタテ留学経費を活用し、2ヶ月間留学しました。親切な先生や学生が多く、不自由なく暮らすことができました。研究施設は充実し、研究環境は抜群です。タイにも、ニワトリに寄生するダニ等（ワクモ: *Dermanyssus Gallinae*）の実害が出ており、薬剤に頼らず吸血ダニを捕獲できる装置の有効性調査が求められており調査を行ってみました。当初は、タイの鶏舎にダニがおらず、一匹も捕獲できず心が折れそうくらい不安でしたが、先生方が休日を返上して遠方での農家での調査協力をして下さいのおかげで、滞りなく調査できました。タイの皆さんの優しさに支えられた研究体験であり、文章として表せない貴重な価値を実感しています。皆さんの優しさに支えられ、研究に専念できたことに感謝しています。留学先としてメチョー大学を選択したことが、自分にとって居心地の良い国の発見につながり、仲間と巡り合う幸運につながったと思います。農学研究科2年（留学当時）奥嶋 涼太（2020年3月修了）